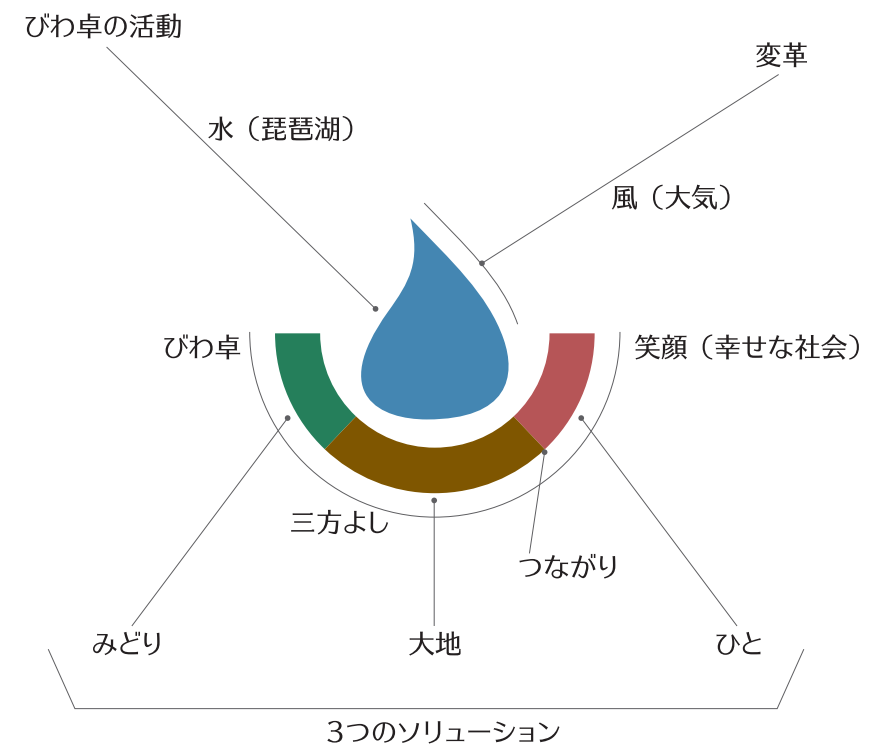


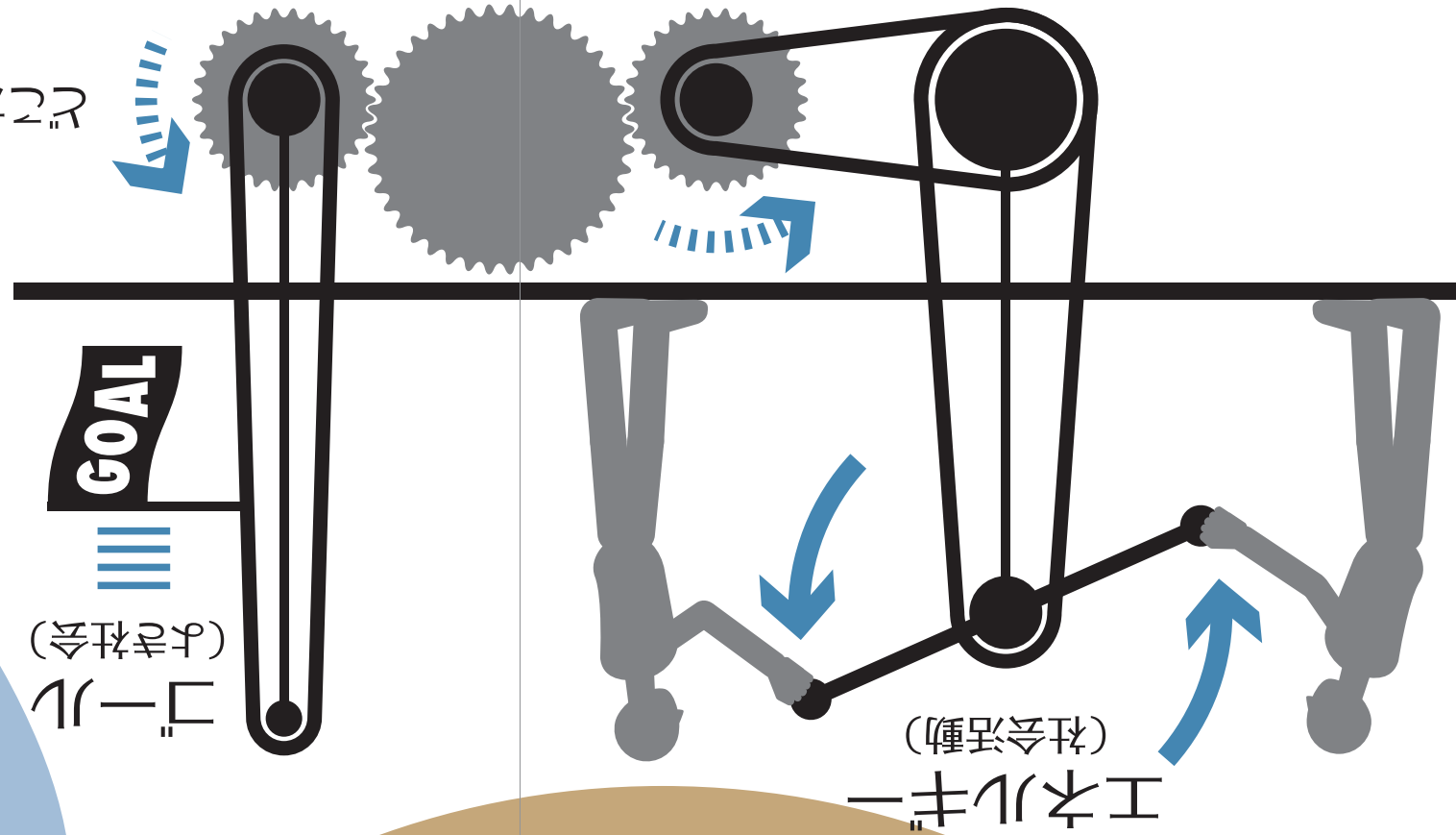
素朴な疑問があります。

なぜ?

よき社会づくりのプラットフォーム。



どこがおかしい...



「精力的に活動している、
それに見合った成果がなかなか
あからない」という現場では、
さまざまな課題がありますか、
その根っこは「コミュニケーション」
です。

- ・ 起業を目指す人は後を絶たないが、起業した人は数少ない。
- ・ 「まちづくり」活動は盛んだが、あまり成果が見えない。

【お問合わせ先】

特定非営利活動法人びわ卓

ウェブサイト: <http://www.biwataku.com>

Facebook: <https://www.facebook.com/biwataku>

わたしたちは、ソーシャルビジネスやまちづくり活動に必要なソリューションを提供するプロフェッショナル集団です。

【目的】

“びわ卓（琵琶湖をテーブルに見立て、社会に抜きんでようとする優れた人材が参集）”で、人と人、活動と活動、コミュニティとコミュニティを“共感”でつなぎ、地域社会の課題を解決するソーシャルイノベーションを創出するためのプラットフォームを提供する。

【びわ卓のプロフェッショナルたち（一部）】

- ・立命館大学理工学部環境システム工学科准教授：笹谷 康之（地図のプロフェッショナル）
 - ・近江ディア株式会社：藤澤 栄一（ICTのプロフェッショナル）
 - ・275 研究所所長／びわこ市民研究所編集長：菱川 貞義（プランニングのプロフェッショナル）
 - ・小川公認会計士事務所：小川 健介（コンサルティングのプロフェッショナル）
 - ・悠ツアー代表：森 聖太（インバウンドのプロフェッショナル）
 - ・株式会社ミズホネット：山本 一男（Webのプロフェッショナル）
 - ・NPO 法人びわ卓 研究員：若林 暢子（ソーシャルビジネスのスタートアップ）
- このほか多彩なプロフェッショナルで構成されています。

多方面のプロフェッショナルの参画をお待ちしています。

- ・クリエイター・コーディネーター・技術者、技能者、研究者・土業 など

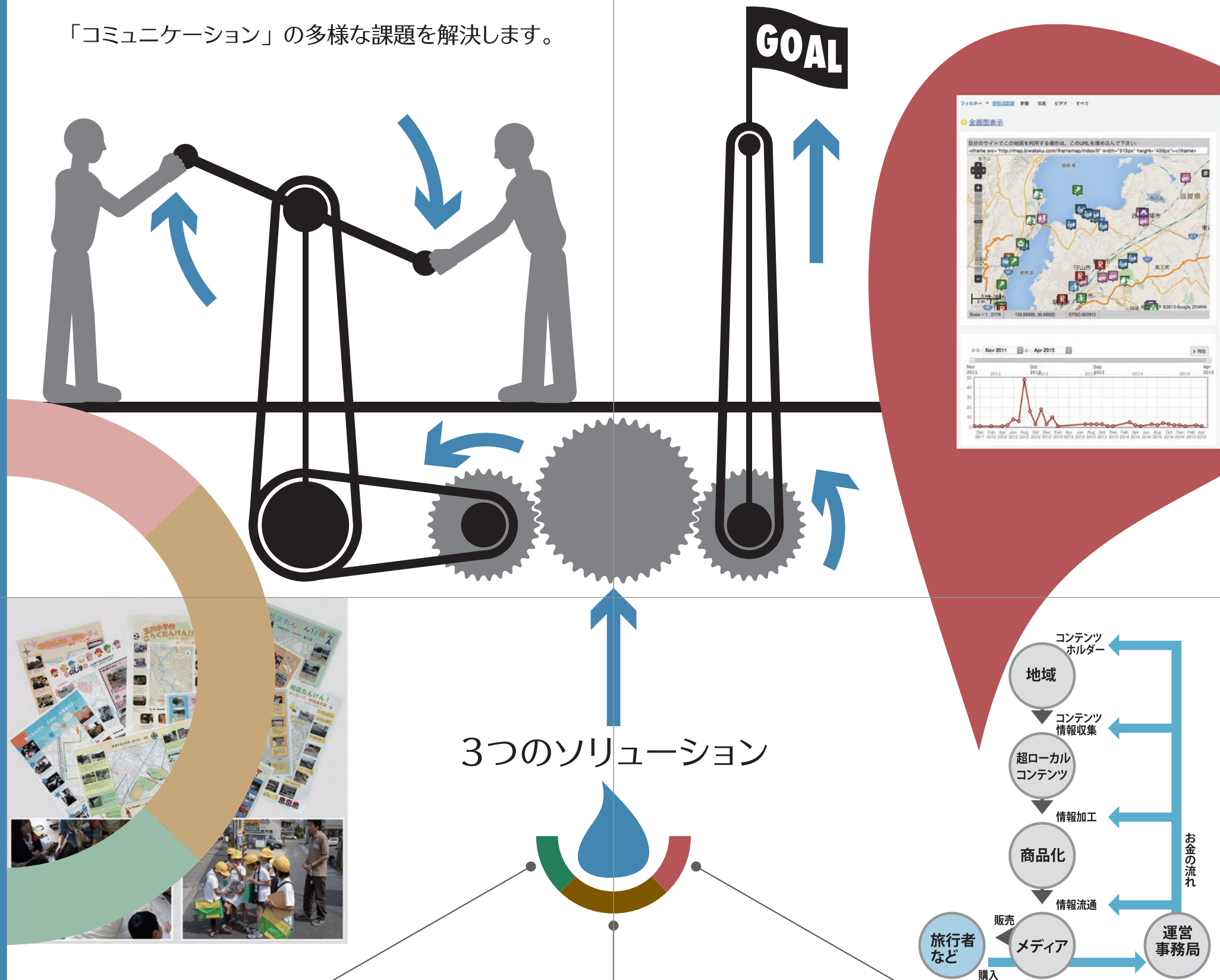


NPO 法人びわ卓の前身は「さわやか情報縁チーム」

新しい公共支援事業を滋賀県から受託し実施するチームとして 2011 年 6 月 8 日に結成した「さわやか情報縁チーム」が、県内の公益的な団体間の相互扶助の関係づくりを支援するために、ICT を使ったシステムの一部を開発。

2011 年秋より「情報発信スキルアップ事業」で滋賀県新しい公共支援事業（活動基盤整備等）を、「活動磁力事業」で滋賀県新しい公共支援事業（公募提案型活動基盤整備等）を相次いで受託。同チームが独自に運営している Facebook「びわ卓コミュニティ」を拠点に、滋賀の NPO、市民活動、まちづくり協議会など公益的な団体活動の活性化を目的に社会活動をはじめています。

「コミュニケーション」の多様な課題を解決します。



●ソーシャルビジネスを支援する、コミュニティ形成と事業コーディネート
 ソーシャルビジネス、あるいはソーシャルビジネスの種となる個人・団体の連携を促進するコミュニティ形成と、幸せな未来づくりにつながる事業のコーディネート。

●まちづくりを支援する、275（つなご）マップ
 まちづくりをより良い方向で、より広範なステークホルダーが参画・推進することを可能とする、地図の ICT（アイ・シー・ティ：情報コミュニケーション技術）である「275 マップ」の開発と提供。

●寄付ビジネスを支援する、ヒーローズ（ハイパーローカルサービス）
 超ローカルコンテンツによる多様な寄付ビジネスモデル「ヒーローズ（ハイパーローカルサービス：Hyper Local service：HyLos）」（地域の未開発コンテンツとヒト・モノ・カネ・情報とのつながり）の開発と提供。